

平成 30 年度第 2 回
平戸市総合戦略推進委員会
議 事 録

と き：平成 31 年 3 月 26 日（火）13：30～15：10
ところ：平戸文化センター会議室 A

開催日時	平成 31 年 3 月 26 日 (火) 13:30~15:10
開催場所	平戸市文化センター 会議室 A
出席委員 (50 音順、敬称略)	赤木望、白石くみ子、田上和利、綱辰幸、豊増見喜雄、 長崎屋容子、福田章、町田和正、松山芳弘、馬渡勇一、山邊幸一、 山本洋一 (12 名)
欠席委員 (50 音順、敬称略)	岡田眞、佐藤武郎、山川菊文 (3 名)
事務局 (財務部企画財政課)	村田部長、小出課長、藤山班長、浦川主任主事
次第	(事務局)
1. 開会	
2. 副市長 あいさつ	町田副市長
3. 推進委員会 会長あいさつ	綱会長
4. 議題 (1)本市の人口動 態について (2)第 2 期平戸市 総合戦略策定及 び来年度のスケ ジュールについ て 及び (3)市民アンケー トの実施につい て	(事務局説明) ●質疑・意見等なし (事務局説明)

委員	<p>●質疑・意見等</p> <p>急速な人口減少が続いているが、大きな原因は何だと考えているか？</p>
事務局	<p>人口減少の大きな要因は、働き先がないということがある。有効求人倍率は1倍を超えているものの、介護職、医療関係等に求人が偏っている。昨年度、田平地区に工業団地が完成し、市としても積極的な企業誘致を行っているもののまだ確定に至っていない。男性雇用型の職場が少ないため、転出が止まらない状況がある。</p>
委員	<p>IターンUターンも重要であるが、抜本的な解決策にならないと思う。人口減少をとめるには、各世帯に必ず後継者が1人残るような施策を行う必要である。各地区にまちづくり運営協議会が設立されているが、ほとんどが高齢者のお世話をするだけであって、本来の役割はこれからの若い人たちに希望と明るい職場を作っていくことだと思っている。平戸市に残った若者が安心して暮らしていける施策を行っていくといったことを基本目標の中に入れるべき。また、市は、まちづくり運営協議会だけでなく、もっと積極的に各地区に入って行って議論を交わし、市の考え方を浸透させるといった努力が感じられない。1人では暮らしていけないので、地域で助け合いながら暮らしていけるまちづくりを行ってほしい。</p>
事務局	<p>ご指摘の点を踏まえながら、第2期平戸市総合戦略の策定に努めていきたい。</p>
委員	<p>今年度、平戸小学校から佐世保北中学校に進学する児童が6名いる。市外の学校に行った方がいい大学にいける、いい出会いがある、いい人たちの刺激をもらえるといって市外にでる人も多い。学力向上や企業誘致、学校誘致等を行い、子どもが残りたくなるような平戸を作っていくということも大事だと思う。また、平戸の大人が、何かをしようとしたときに盛り上がってない。もっと前向きに協力的になってくれたらと思う。昨年行った平戸城のプロジェクトマップングにつ</p>

	<p>いても、「こんなところにお金を使って」と言う方が多くいた。実施することが決まっているのであれば、もっと前向きにみんなで協力して平戸に人を呼び込んで、地域を引っ張る力にしていければと思う。そのような大人の姿を子ども達に見せていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>3月の広報ひらどに掲載されていた高校生のアンケートがすごく気になった。将来平戸市に住みたいと思う生徒が25.5%、住みたくないと思う生徒が74.5%であり、それと同じように保護者の方も同じぐらいの割合であった。1度は市外に出てみたいという気持ちはわかるが、そこに住んでいる大人が子どもに住んでほしくないという思いを持っていたら、若い人たちも帰ってこないと思う。そこに住んでいる人たちがなぜそのような思うのかというところをもっと突き詰めていかないといけない。大島では、小さいころに大人たちが平戸で頑張っている姿を見せることにより、結構後継者が帰ってきている。子どもを育てている親の意見を多く取り入れてほしいと思う。行政と市民の意見交換を密にした方がよい。</p>
<p>委員</p>	<p>大島は高齢化が一番進んでおり人口減少も激しい。一方、度島は減り方が緩やか。しかも男性の方が多いという変わった人口構成となっているようであるが、その理由がわかればおしえてほしい。また、そこに人口減少抑制の何らかのヒントがあるのではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>たしかに度島の方が人口の減り方が少ない。現状、人口は大島の方が400人程度多いが、子どもの数は度島の方が多い。推測であるが、父親の働き先で長崎の遠洋漁業会社の従業員が多く、所得が安定していることに加え、子どもが2～3人いる方が多いことが理由として考えられる。</p>
<p>委員</p>	<p>度島に知り合いが数名いるが、地域性がとても濃い。お正月は必ず帰り家を回ってお酒を飲む。そのようなことが地域に根付いており、度島の人たちは地域性を大切にしているし、自分達が継いでいかないと</p>

<p>委員</p>	<p>いけないと思っている。</p> <p>平戸に何で若者が残らないかといった場合に一番の問題は働く場所。ハローワークには求人があるが、今の求人の半分ぐらいは正社員でない。給料は、はるかに都市部がいいわけで、そこで一旦若者が都市部に出る状況がある。度島の例だと、巻き網等の乗組員は昔ほど給料が高いわけではないが、内航海運とかはとても高く生活が安定する。</p>
<p>会長</p>	<p>郷土愛を小さいころから育てていると市外に出ても帰ってきやすいといった調査もある。</p>
<p>事務局</p>	<p>市内の中学生の53%しか市内高校に進学していない。また今回の入試についても、市内3校平均倍率は0.7倍となっている。そのような中、今年度から高校魅力化の事業に取り組んでいる。全国各地で実績をあげているコンサルタントに入ってもらい、どういったものを施策として実施していくかを平成31年度で具体的にしていく。また、大人の意識の問題は、親によっては「平戸に残らないでよか」、「市外に出て行け」といった方が多いのも事実ある。市としては、シビックプライド、郷土愛の醸成にも取り組んでいきたい。子どもの頃にふるさとの良いところを伝え、一度市外に出ても平戸はこんなにもいいところだったんだということを思い出して頂きたい。そして平戸に帰りたくなったときに地元を受け皿がどれだけあるかということ。そのようなことに答えられるように、平成31年度の組織改変では企業誘致の専門部署を設置している。大人の方々がいつかは子どもを地元に戻したという気持ちにさせるのも、行政の役割の一つだと認識している。人口減少に歯止めをかけるため、行政が一体となって取り組んでいくのでご支援を頂きたい。</p>
<p>委員</p>	<p>年齢別転入転出人口を見ると、60歳から69歳の転入が多くなっている。平戸市総合戦略の体系図では、この年代の移住推進について目標</p>

	<p>達成する方策の中に生きがいを平戸で見つけるとか、PR戦略を入れてもいいのかなと思う。</p>
事務局	<p>平戸の豊かな自然や地域のきずなが強いところを活かしていくことはもちろんであるが、一番大事しないといけない所は、平戸に縁のない人が来たときに、地域の関わり方等のフォローアップをしっかりとしていかなければならないと思っている。多趣味を活かせるような雰囲気につながるように努力していきたい。</p>
委員	<p>人口を維持することは大事であり、総合戦略に書かれていることは理想としては正しい。しかし、まずは地元の企業に頑張ってもらいたい。企業がつぶれると働く場所も無くなる。現実には働き手がおらず企業は四苦八苦している現状がある。異論はあるかと思うが、入管法の改正もあったように外国人労働者を受け入れざるを得ないと思う。まず労働者を確保しながら地域経済を維持することにより、受け皿が増え子ども達に帰ってきてもらえる基盤ができるのではないかと。理想論ばかりいっているが、3～5年後に労働者がいなくなって企業が大変なことになるのではないかと危機感をもっている。市はどのように考えているのか。</p>
事務局	<p>短期間で成果がでる施策となると、現在、創業支援について補助を行っている。総合戦略開始直後は申請件数が多かったものの、最近では減ってきている。また、平戸北部地区では、活用が多いものの生月田平地区に広がっていかない状況を踏まえると、今までのやり方が良くなかったのではないかと判断せざるを得ない。第2期総合戦略の策定について、委員の皆様からの専門的見地から意見を頂きながら、効果的な施策を行ってきたい。</p>
委員	<p>総合戦略の策定の概要について、第1期総合戦略の成果と課題の整理ということで、各指標を使って検証等を行っていくと思うが、市民アンケートを使った満足度調査が多いと感じる。平成27年度の基準値が</p>

	<p>何を基準に設定されているが分からないが、これだけでは、施策を作る上でどのような分析を行い、どう事業に結びつけるのかよく分からない。今度、専門家に分析を依頼する等、どのような形で事業を展開していくのか。</p>
事務局	<p>先ほどの平成 27 年度の基準値については、策定時にアンケートとして基準値を定めている。内部でもアンケート数値を数値目標・K P I に採用するのは適切ではないのではないかといった意見も出ており、第 2 期総合戦略策定については、客観的な評価検証が適切にできるよう数値目標・K P I の設定を考えているが、施策によってはどうしても市民アンケートの結果を採用する部分も出てくるかと思う。その際には、推進委員会でも意見を頂きながら目標設定を行っていく。また、分析については、専門的なところをお願いした方がよい部分もあるが、現時点では庁内での分析に止まっている。</p>
会 長	<p>市民アンケートの中で、若い人の意見を聞くといったことはできないのか。対象年齢を下げるとか。</p>
事務局	<p>今回のアンケートは、前回の中間アンケートからの推移を見る必要があるため、このような形になっている。また若い人の意見としては、今年度実施した高校魅力化事業にかかるアンケートの中でも生徒及び保護者に対し、高校に関することに限らずいろいろな意見を頂いているところであるが、再度アンケート内容については内部で協議させて頂きたい。</p>
委 員	<p>私は主に小規模事業者を対象に事業を行っているが、今問題になっているが事業承継。伸ばすよりも維持することの方が多くなっている。創業についての相談は減っているが事業承継の相談は増えている。事業者が事業承継を行うとなると、子どもがいれば後を継ぎ、いなければマッチングしながら誰かを探す。また、売却という方法もある。そのような相談が増えてきており、全国で人口減少が進む中で、人口減少</p>

	<p>を緩やかにするといった観点からも、今後は事業承継に取り組んでい かないといけない。</p>
<p>委 員</p>	<p>先ほどからあるように、地場産業の維持を行わなければ人がいなくな る。新しい若者が入ってくるというのは、社会情勢からみても難し い。日本全国で外国人の受入をやっており、農業については、平戸市 に事業主体を設けるとのことであるが、漁業者も含めて外国人労働者 の受入体制の整備を行い、事業者も応分の負担をしながらやっていき たいと思っている。戦略とは別でも取り組んでもらいたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>第2期平戸市総合戦略策定に係る今後の進め方については事務局提案 のとおりでよろしいか。</p>
<p>委 員</p>	<p>異議なし</p>
<p>(4)地方創生推進 交付金の活用に ついて</p>	<p>(事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等なし</p>
<p>(5)その他 事務局</p>	<p>先ほど委員から話があった広報ひらど3月号のサポーター制度につい ては、高校魅力化について協議を行う中で、高校から平戸市内の職場 や活躍している人がいるのか分からないので、間をもってくれないか という相談があり、このサポーター制度を立ち上げた。本市で活躍し ている方、かっこよく働いている方の姿を子ども達に見てもらいたい と思っている。3月の広報に掲載したが、まだ数える程度しか問い合 わせ等もあっていない。よろしければ関係団体にも周知を行って頂き たい。</p>
<p>7. 閉会</p>	<p>会議終了</p>